



Mother's Day Catrina Caira

A wonderful celebration happens on the second Sunday of May each year in Canada. It is a celebration of mothers and mother figures (step-mothers, Mother-in-laws, guardians, even family friends who have been like mothers to us). It is the busiest day of the year for many restaurants, as taking you mother out for a meal is a popular way to celebrate. Cards, flowers, chocolates, gift certificates, and handmade items are also very popular.

Though this holiday started in America it is very popular in Canada. For Mother's Day this year I thought I would honor my mother, Darlene, by writing a little about her. My mother is an American who married a Canadian and moved to Canada. She studied to be a primary school teacher and got a master's degree in special education (teaching people with disabilities). She started work as a teacher in America but then came to Canada to teach when my sister and I were very young. She has been teaching Kindergarten (4-6 year olds, which is when elementary school starts in Canada) for over 10 years now. She loves children and has always been a great role model (※) for me. She has taught me so much and is the reason I became interested in teaching which lead me to be interested in teaching here. I'm very glad she inspired me to teach and come to this wonderful town.

【ちよっと豆知識】 宮地晶子

※role modelという言葉が出てきました。「手本になる人物」とか「役割モデル」という意味。成功を収めた人や尊敬できる人のことです。テレビのコマーシャルでよく聞くRPG(アールピージー)とは、ロールプレイングゲームのこと。これはシナリオがあって、集まったプレイヤーが誰かの振り(役割)をして演じるものです。ゲームのドラゴンクエスト、はやりましたよね。

母の日 カトリーナ・カイラ

毎年カナダでは、5月の第2日曜日は、素敵なお祝いの日です。母や母のように頼れる誰かを祝福する日で、それは継母、義母、後見人や家族ぐるみでつきあう友人たち一私たちにとって母のような人たちも含まれます。母を食事に連れて行く人が多いので、レストランが一番混む日でもあります。カードや花、チョコレート、商品券や手作りの品も人気です。

米国で始まりましたが、カナダでもとても人気の祝日です。母の日ということで敬意を払って、今日は母ダーリーンについて書こうと思います。米国人の母はカナダ人の父と結婚してカナダに移住しました。小学校教員になる勉強をし、特別支援教育の修士号を取りました。米国で教員として働き始め、姉と私がまだとても小さいうちに移住しました。10年以上、就学前の4~6歳の幼児を教えています。子供が大好きで、私にとっては素晴らしいお手本です。母からたくさんのことを学び、おかげで教職に興味を持ちました。ひいてはここで教えることにもなりました。母のおかげで教えるという仕事に就き、この素晴らしい町に来ることが出来てとてもうれしく思っています。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第129回

I'm gonna make America great again!

アメリカ合衆国大統領選挙がメディアで連日大きく取り上げられていますね。テレビでドナルド・トランプ氏、ヒラリー・クリントン氏の演説を見る機会があります。字幕も必要ないくらい簡単な英語ですが、丁々発止の掛け合いはさすがにおもしろい。

翌日の授業ですぐ話題にしました。トランプ氏が "I'm gonna make America great again." (アメリカをもう一度グレートな国にする) と言えば、すかさずクリントン氏が "We don't need to make America great again. America has

never stopped being great." (そんな必要ないわ。アメリカはいつだってグレートなんだから。) と切り返す。

高校入試間近の中学3年生には、この掛け合いのmake(させる)やdon't need to(する必要はない)を穴埋めにして「何が入ると思う?」と質問したり、stoppedの後ろに(be)と書いて、適当な形に変えられる?と聞いてみます。3年生にドンピシャのレベルだったのです。

聞けばこの2人の英語は、米海軍開発の「キンケイド指標」では、それぞれ小学4年生と中学1年生程度の英語だそうです。高学歴の2人は、理解と共感を得るためにわざとそういう話し方をしているのですね。私たちが中学生レベルの英語をしっかりと習得したら、大統領に立候補できるくらいコミュニケーションを取れる、ということ。まさに私がいつも目指しているところです。

ちまたでは「中学生英語でここまで話せる」的な書籍がたくさん売られています。中学生の皆さんはまずは教科書を完璧に使いこなしましょう。それからぜひラジオ基礎英語をシャドウイングしてみてください。